

雜 感

大和郷幼稚園 坂 内 い ツ

迷ふ事ばかり

再び幼稚園の仕事にたづさはつて一年にならうとするので其の仕事のあとを反省して見度いと思ふ。幸にして私の園は經營上のことについては心配しなくてよいので主力を保育に注がれるのであるが、扱て考へて見ると、談話についても唱歌、遊戯、手技手工、觀察等其一つ一つについて大に研究せねばならない。又良い習慣をつける上にも個性を發揮させる上にも考へるべき點が多いのである。之等の大きい負擔は元より凡人のなし能ふ處でない實際家の立場としては何を第一に考ふべ

きであらうか。各兒の個性を觀察して其性質に適當したよい習慣を養ふ事は實際家でなければ出来ない仕事である。其他の事は何れも専門家が研究して居られるから其方々にも願ひして研究された所を教へていたゞき、之を消化して行くのが唯一の道と思ふ。幸にも近頃は談話にしても唱歌遊戯にしても研究なさる専門家多數で、年毎に日毎に新らしい意見を發表され、實際家のよるべき道を示して下さる。目の前には何時も滋養に富んだ御馳走が列べられて箸さへとればよいやうにして下さる誠に感謝すべき事である。たゞあまりに御馳走が多過ぎて、其まゝいたゞいては食傷の慮があ

るのに注意せねばならぬ。何れをとり何れを後にすべきかに迷うのである。時には目の前の御馳走に目が眩み日に日に研究される新しい御馳走の出て居るのに気がつかない時がある。又時には箸をとるのが面倒だと箸さへ取らない事がないでもない。よし進んで箸をとつたとしても何を食べたら自分の體に同化するかに迷つて箸も鈍るのである。實際營養分は多量にあつても體質によつて同化し難い物と同化し易いものとある。自分の體質を充分に理解し一定の見識を以て其營養品を選択する事は容易のやうで容易な事ではないと迷ふ事の多いのも無理ではない。

よい習慣をつける上には、より以上の苦心がある。子を見る事親に如かずといはれて居る親が寢食を共にして居る少數の我が子の個性をさへ時には見誤り不良兒を出す事が無いでもないのに、一日の内僅かに四五時間しかも健康のよい機嫌のよ

い時遊び相手をして居るだけで、其兒の全性格を見出そうといふのは困難といふよりはむしろ無謀な事である。天心爛慢己を欺かずさらけ出すからよくわかるやうなものの少し健康を害した日には快活な兒も忽ち陰鬱となり穩かな兒も氣が立つて来る。お天氣と共に其あらはれが違つてくるので、どれが其兒の本性であるか疑はるゝやうである。其他活動的な子供にしようと思ふと時に蠻勇を振ふやうになり、上品にしようと思ふと消極的な人になる。發表の上手な人にしなくてはと思ふとおしやべりになり、落ちつきある人と思ふと遅鈍になり、敏捷にと思ふとせつかちになる。玩具の取扱にしてもよく利用させようと思ふと使はせれば取扱が粗末になり忽ちこはしてしよう。大事にさせよう長く保存させようと思ふれば使はせられなくなり、見せる玩具になつてしまう。一つの遊びにしても長く注意を集注させようと思ふれば後

の片附が十分出來ず室内が不整頓になる。整理整頓を充分にさせようとすればまだ興味のつくものを止めさせねばならぬ事になる。其中肅を得る事の困難さは其衝に當つた人でなければ味はれぬ事である。保姆は其時と場合に應じて處置を誤らぬ技能を有し其時の目的をしつかりと握つて居らねばならないのである。

小學校に送るについて

幼稚園には幼稚園の目的がある。小學校の豫備ではない、けれども一人として小學校に入學しない人はない。其小學校が入學難にて或小學校の如きは十五人の合格者に對して四百餘名の志願者があるのだから親が氣を揉むのも無理はない。保姆としても二年間手鹽にかけた可愛い子供を其望む小學校に入學させてやり度のは人情である、力を注がずに居られない。然らば其準備はどうしたら

よいか。假令入學の事は考へずとも其年齢相當に心身を發達させるのは大切な務であるが、さて心の方面殊に知的方面が何處迄發達させればよいか標準がわからない。近來行はるゝ小學校の入學檢定の問題を見ても何を標準として居らるゝかはつきりつかむ事が出來ない。中學校や女學校の入學試験に於ても問題の撰定に頭を惱さるゝは元より受験者も其準備に苦しみ、試験地獄などといはれるけれど要するに國定教科書の中から出るに過ぎない。明かに標準が示されて居る。たゞ範圍が廣いだけである。然るに小學校の檢査には標準が示されていない彼等は何によつて目標を定めたらよいであらうか、成績をのみ考へる結果教へ過ぎつめ過ぎて子供に過重な負擔を負はせて居るのではあるまいかと心配される、殊に熱心のあまり氣を揉み過ぎる親達が多くなるので一層つめ返されるやうに思はれる、一生涯に再び來ない遊ぶ時代に親

からも先生からも教へ過ぎられ、知に走つた子供らしくない子供が多くなるのではあるまいかと案じられる。しかしそうした子供の方が検査の結果がよいやうに思はれるので尙更考へさせられる。

小學校と幼稚園と共力して研究していたゞき大略の標準を示していたゞけば私共は之を目標にして之に達する方法を考へて行く事が出来ると思うのである。

視學がほしい

かうして數へ來れば困る事ばかりである、この疑問をどなたに相談したらよいのか、倉橋先生、其他の先生の膝下に居る時は何時では伺はれると思ふせいゝかそんな淋しさを感じた事はない、此度獨りはなれて仕事をすれば如何にも頼りなく心細さを感じる、其度毎に伺ひに參ればよいのだがこんな小さな問題で一々先生を煩はす事は相濟まぬ

又も忙はしい先生には容易に御目にかゝる機會がないのである。かう思う時私はどうしても視學が欲しいと思ふ。それは相談相手になつて下さる視學、親切に其園の環境や事情を観察してこの園にはこの方法が理想的である、この園ならば少しこの點を改めたらよいといふやうに其園其園によつて指導して下さる視學がほしい。假令一年に一回か二回しかまわつて來られなくとも、そうした方があれば相談にも行かれる。經營上の苦心や保姆の採用等についても緩和される事と思ふ。たゞ缺點をさがし出す事を務とする視學や權威を振りまくだけの視學ならば無い方がましである。又談話だけの視學、唱歌だけの視學ならば有難くない、幼稚園の全般を知りぬいた實際家の指導者で時に應じ園に従つて質問に答へて下さる視學を置いて下さる事を切望して止まぬ次第である。